

COVID-19 と先生 第1回

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大によって、世界各地で移動制限が始まると、教育も、仕事も、通院も、そして友人との集いや、芸術・文化にふれることまで一まさに世界人権宣言の中の多くの権利が一制限を受けました。こうした経験を通して、これらがどれほど重要な人権であるか、あらためて気づかされたのではないのでしょうか。さらに感染症は、マイノリティや、弱い立場に置かれている人びとに、より負の影響を与えています。

教育の場においても COVID-19 がどのような影響を誰にもたらしたのか、人権の視点からこれまで起こったことを振り返るとともに、これからのためにも、「COVID-19 と先生」というオンラインセミナーを企画しました。

第1回は、中学校で教鞭をとり、長年、同和人権教育に取り組んでこられた竹本俊一さんと、NPO デフサポート大阪で聴覚障害の子どもたちの学習支援に取り組む稲葉秀子さんから報告をいただきます。課題を共有し、共に考えることを通じて、すべての人の人権をまもる教育活動につながる場になることを願います。みなさまの参加をお待ちしています。



日程と報告者

2020年8月30日(日) 午前10時30分～12時

○報告①「COVID-19 とオンライン学活-取り組みから見えてきたこと-」

竹本 俊一さん(公立中学校教員)

○報告②「COVID-19 と聴覚障害生徒への学習支援」

稲葉 秀子さん(デフサポートおおさか理事)

<コメンテーター> 阿久澤 麻理子さん(大阪市立大学教員)

(※プロフィールは裏面にあります)

定員: 30名(先着)

参加費: 無料

申込み: 右の QR コードを読みこむか、ヒューライツ大阪のウェブサイト

「これからのイベント・セミナー」からお申込みください。

※ZOOM でのオンラインセミナーです。セミナーでは、パソコンによる文字通訳をサポートします。申込の受付後、ZOOM の設定などのご案内をメールで送ります。

申込みはこちら



主催・お問合せ: (一財)アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)

E-mail: webmail@hurights.or.jp TEL: 06-6543-7003

URL: <https://www.hurights.or.jp/japan/>

<https://forms.gle/hXCsoGAkH2uKVhdJA>

報告者紹介

竹本 俊一さん

関西の公立中学校教員。児童生徒支援加配を担当。COVID-19 による臨時休業中に行われることになった「オンライン学活(学級活動)」。実施を進める中で、様々な課題が明らかになり、「生徒の人権への配慮をどうするのか」という相談が同僚から寄せられた。「人権」を教育現場で保障していくことはどういうことなのかを、あらためて考えたい。

稲葉 秀子さん (特定非営利活動法人 デフサポートおおさか 理事)

特定非営利活動法人デフサポートおおさか(大阪市中央区)の理事兼スタッフ。1985年関西大学社会学部卒業。大学時代に障害者解放運動に出会い現在に至っている。2017年大阪市立大学大学院創造都市研究科修士修了。デフサポートおおさかの活動の一つとして2010年に開始した聴覚障害生徒の学びの場「ぼちぼちEdu」で、手話でコミュニケーションしながら教科指導に携わっている。

コメンテーター

阿久澤 麻理子さん(大阪市立大学教員)

大阪市立大学教員(都市経営研究科／人権問題研究センター)。研究テーマは、日本とアジア太平洋地域の人権教育、現代社会において変容する差別(部落差別を中心に)。(一財)アジア・太平洋人権情報センター理事。2020年度前期は大学のすべての授業がオンラインとなり、全学共通科目は「COVID-19から人権基準を考える」ことをテーマに実施。